

令和7年度国語教育研究部夏季研修会 講話記録

○テーマ：現在の国語教育に求められる授業づくりと学習評価

○講話：茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 三原知弥

○講話内容

1. 探究的な学びの充実に向けた授業づくり

「未来を拓く学びの展開」より「問いの発見と解決に重点を置く探究的な学びの充実」として試行錯誤、アウトプット、まとめと振り返りを重視する必要がある。また、振り返りの充実のために、授業の途中に「良い意見だね。今日は良い振り返りが書けそうだね。」など振り返りの視点を与えることも一つの手立てである。さらに、「問い・課題」と「まとめ」を対応させることも重要である。授業の途中で脱線しそうになったら、「今日この時間何やるんだっけ？」と「問い・課題」に戻り、目指していた目標を達成できるためである。

2. 国語科の授業づくり

①指導編

令和7年度学校教育指導方針より、小学校も中学校も「読解力×論理的思考力」が重点とされている。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から「記述力の向上」が授業改善のポイントである。例えば、「書きたい」「書く必要がある」学習課題・テーマの設定や、個人がテーマを選び愛着が持てるようにするなどが挙げられる。いずれにしても、どこでつまづいているのかを見取れるデザインになっているかが重要である。

また、授業改善のポイントとして「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」のように関連を図ることも重要である。

②評価編

国語科における単元の評価規準の「主体的に学習に取り組む態度」は、次のように記述する。

例	
①粘り強く	①粘り強さ 積極的に、進んで、粘り強く等
②文章と図表などを結び付け、	②他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
③学習の見通しをもって、	③自らの学習の調整 学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等

④意見文を書こうとしている。	④当該単元（や題材）の具体的な言語活動 （自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）
----------------	---

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を参照。